

再評価結果（平成 20 年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課

担当課長名：松谷 春敏

事業名	阪急京都線・千里線連続立体交差事業 (淡路駅付近)		事業区分	街路	事業主体	大阪市	
起終点	京都線：大阪市東淀川区柴島 1 丁目～東淀川区上新庄 2 丁目 千里線：大阪市東淀川区柴島 2 丁目～吹田市清和園町			延長	6.9km		
事業概要	本事業は崇禅寺駅から上新庄駅付近（京都線）柴島駅から吹田駅付近（千里線）について、 鉄道を現在の地平から高架化することにより、17ヶ所の踏切を除却し、道路交通の円滑化、踏切事故 の解消を図るとともに、鉄道により分断されている市街地の一体化を図るものである。						
H3 年度事業化	H6 年度都市計画決定 (H18 年度変更)		H9 年度用地着手		H19 年度工事着手（予定）		
全体事業費	1,450 億円		事業進捗率	9%		供用済延長	0km
踏切交通遮断量	3 1 2 , 7 0 0 台・時/日						
費用対効果 分析結果	B / C (事業全体) 2.0 (残事業) 2.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 976/1,141 億円 事業費：976/1,141 億円 維持管理費：0.3/0.3 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 2,266/2,266 億円 移動時間短縮便益：2,219/2,219 億円 走行経費減少便益：45/45 億円 交通事故減少便益：1.5/1.5 億円	基準年 平成 19 年度			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保（ボトルネック踏切の除却が見込まれ、道路交通の円滑化が図られる）</li> <li>個性ある地域の形成（鉄道により一体的発展が阻害されている地区を解消する）他 16 項目に該当</li> </ul>						
関係する地方公共団体等の意見	淡路駅周辺では土地区画整理事業を同時に事業実施しており早期の事業完成が望まれる。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	列車通過本数は事業開始当初から非常に多く、現在でも最大で 674 本/日と多いため、踏切遮断交通量 も高い値で推移している。						
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業進捗率：約 9%（事業費ベース） 用地買収進捗率：約 82%（面積ベース） 残事業：用地取得・鉄道工事・道路工事						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	当該地域は用地境界が不明確な箇所が多く、用地買収に先立つ境界確定等に時間を要していることや、 地価下落局面の中、用地交渉がますます難航している。 工事進捗に影響しないよう、H22 年度の用地買収完了を目指す。						
施設の構造や工法の変更等	土地区画整理事業の換地により生み出される限られた用地において、京都線と千里線との相互乗り入れ 機能を確保するため、淡路駅部は 2 層高架を採用している。						
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば当初からの事業の必要性・重要性は変わらないと考えられる。						
事業概要図	別紙のとおり						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

